

ハワイ語の空間表現： 方向詞を中心に

岩崎加奈絵（AA研特任研究員）

*本研究はJSPS科研費 JP19K13156の助成を受けたものです。

本発表の構成

1. 前提：ハワイ語の特徴 および 研究手法
2. 空間表現に関する諸要素
 1. 指示詞
 2. 位置名詞
 3. 方向詞
3. 空間表現とハワイ語『に関する』変化
4. 目下の課題と今後の展望

1. ハワイ語の特徴 および 研究手法

- 基本語順VSO、孤立語
- 比較的子音が少ない / p k ʔ h m n l w[v~w] /
- 内容語の品詞分類はレキシコンのレベルには基本的になく、統語的なラベルとして認められる
- 固有の文字を持たず、西洋との接触 (18c-) まで口承文化
- 政治的变化により、20世紀初頭に自然継承が激減
- 1970年代以降は言語復興運動が盛んに。話者を自認する人の数や教育のチャンスが増えている。公的には州の公用語のステータスを得ている

参考：動詞句の句構造

否定辞	T A 詞	内容語	結合 目的 語	修飾 語	受身	方向 詞	後置 (指示) 詞	強意 詞	主語	直接 目的語	間接 目的語	その 他
∅ 'a' ole	∅ ua e ke i		∅	∅ ※ ¹	∅ 'ia	∅ aku mai a'e iho	∅ ana nei ala ai lā	∅ nō nō ho'i など		∅ i NP	∅ i NP	∅ ※ ²
mai												

岩崎 (2018)より引用

※1の箇所では、同カテゴリ内の要素であれば、同時に複数個出現可能。
 ※2時・場所を表す句など。

参考：名詞句の句構造

岩崎 (2018)より引用

前置詞	決定詞	複数	内容語	修飾語	受身	方向詞	後置指示詞	強意詞・修飾名詞句
否定辞								
(∅) 'o i/iā ma ā a o me mai e ē na no pe	(∅) ka/ke nā kēia kēlā kēnā nei ua ia ko NP (Poss) ka NP (Poss) he kekahi	∅ mau		∅	∅ 'ia	∅ aku mai a'e iho	∅ nei ala lā	∅ nō nō ho'i など ※ ²
'a'ohe								

1. ハワイ語の主な特徴 および 研究手法

- 言語学では言語再活性化の事例として着目されることが多い
- 文法研究は盛んとは言い難いが、先行研究としてある程度網羅的な文法書(Elbert and Pukui 1979)が存在する
- 発表者の研究に関して：
 - (特に19-20世紀 = 文字記録が残る自然継承期末期の) ハワイ語文法を対象とする
 - この時期に書かれた「民話・医学解説書・創世神話・祈祷文」をメインコーパスとし、主に機能語の記述見直しを行う
 - コーパスは順次拡充中。現在は20世紀後半以降の資料、また同時期の文献以外の資料（70年代以降の音声資料など）もあるが、映像資料は限定的

2. 空間表現に関する諸要素

- ハワイ語の語彙・文法要素の中で空間表現に関するもの
- 今回取り上げるのは
 1. 指示詞
 2. 位置名詞
 3. 方向詞
- これら以外にももちろん関連する要素はある
前置詞、移動語彙（移動様態・経路を含むもの）、
東西南北など絶対的方向を表わす語彙 etc.

2.1. 指示詞

- 内容語に対する位置による区分：前置指示詞・後置指示詞
- 前置指示詞：k系－3系統。単独で or 修飾語として使用される

kēia puke この本

kēnā puke その本

kēlā puke あの本

	指示対象	出現数 (/156,621)
kēia	話し手の近く	1244
kēnā	聞き手の近く	20
kēlā	両者から遠く	323

- その他－ **ua** “just mentioned”, **ia** “aforementioned”、**nei** “an emotional connotation” (Schütz et al. 2005)

距離は含意されず、基本的に修飾用法。

*pē-+指示詞/疑問詞 を（前置）指示詞とみなすこともある

2.1. 指示詞

- 後置指示詞：内容語に後置される文法要素。どの要素も様々な用法を兼ねており、1) **前方照応的な役割**のほか、2) **テンス・アスペクトを示す構造の一部**をなし、3) **時間表現**にも頻出する。

(Elbert and Pukui 1979, Pukui and Elbert 1986, Schütz et al 2005)

lā/-la 遠称。ua … lāで “that aforementioned”

ala 「there相当」。ua…alaで “this/that aforementioned”

nei 近称。ua … neiで “this aforementioned”

cf. 動詞句にのみ出現する同スロットの要素

ana single eventであることを示す

ai 関係節構造における前方照応マーカ-

→nei以外は「空間表現」にはあまり関与しない？

2.2. 位置名詞

- 所有形で示されるランドマークを基準に、相対的な位置関係を提示する表現。絶対的方向を表わす表現よりも圧倒的に高頻度で使用されている

ma waho o ka hale / i uka o Honolulu
Prep 外 Poss Det 家 Prep 山側 Poss ホノルル

- 基本的にはclosed classと考えられるが、代表的なもの以外にも複数ありうることを示唆する記述も (Schütz et al. 2005)。普通名詞との識別法としては、前置詞の後に無冠詞で現れることができるか否か

loko 「中」 **waho** 「外」 **luna** 「上」 **lalo** 「下」 **mua** 「前」
hope 「後ろ」 **waena** 「間」 **muli** 「あと (・理由)」
kai 「海側」 **uka** 「山側」 **kaha** 「場」
kahaone, kahakai 「浜」

2.3. 方向詞

- 内容語（主に行為を示すもの）に後続し、行為のもつ方向を示す機能語

aku away from; thither

mai toward; hither

a'e upward

iho downward

- 最も典型的には空間移動、抽象物の「移動」も表すことも多い

hele aku 「行く」 hele mai 「来る」

hele a'e 「のぼる」 hele iho 「くだる」

a'o aku 「教える」 a'o mai 「教わる」

2.3. 方向詞

- その他、比較用法や時間表現でも頻出する

<論点その1：使われやすい/にくい 状況とは？>

- 使用は必須ではなく、行為を表わす内容語であっても伴わないことも珍しくない
 - 使用するか否かは話者の判断によるといえるが、使いやすい・にくい状況の有無自体、これまで論じられていない
 - *使用規則は記述が非常に難しい、という言及はElbert and Pukui 1979でされている
- 特定の方向詞との共起のしやすさは、語彙的に決まっているらしいことはわかっている（岩崎 2018）

2.3. 方向詞

<論点その2：「誰から見た」方向なのか？>

- 1人称主語の場合、視点は基本的に話者に置かれる
- では3人称文の場合は？という点は未だ不明瞭

視点が置かれる参加者は、多くの場合 行為者 = 主語ということになるが…

- 「主語の交替はどのように決まる」という疑問にスライドする
(そもそも動詞が先に選ばれるのか主語が先に選ばれるのか…)
- 明確な主人公の存在する物語文においても、主語/視点が交替したりしなかったり…ということはある、ナラティブの中でも一貫しているわけではない

cf. 直示的な空間表現と絶対的な空間表現

- ハワイ語の場合、基本的には直示的空間表現（位置名詞や方向詞など）がよく使用されている
- 一方で、地名を直接指すパターンを除くと、絶対的な空間表現は使用頻度が落ちるように見える。東西南北でいうと…

			出現数 (/156,621)
hikina	東	hiki-（太陽が）昇る	25
komohana	西	komo-（太陽が）入る	18
'ākau	北	西を向いた時の「右」	6
hema	南	西を向いた時の「左」	2

3. 空間表現とハワイ語に『関する』変化

- ハワイ語に「関連して」起きた変化の中には、空間表現に関するものもある
- 例：Pidgin Hawaiianにおける方向詞（Roberts 2013）

mai ‘toward’

aku ‘away from’

iho → **maluna**（前置詞+位置名詞、「下に」）に変化

a’e → **malalo**（前置詞+位置名詞、「上に」）に変化

⇒ 本来別のカテゴリに合った位置名詞が方向詞を置き換えた例

3. 空間表現とハワイ語に『関する』変化

- 現代ハワイ語における変化も僅かながらあるように見える

例：方向詞の使用頻度の比較（岩崎 2018にデータ修正・追加）

	自然継承期ハワイ語		現代ハワイ語		
	Hi'iaka	SF	'Aleka	Lili'u	Kamehameha
総語数	92215	19893	35916	7612	8686
aku	1681	386	465	59	162
mai	1916	358	530	64	82
a'e	777	113	122	27	23
iho	489	158	143	25	43
方向詞出現数	4863	1015	1260	175	310
総語数に対する 方向詞出現数の割合	5.27%	5.10%	3.50%	2.30%	3.57%

4. 目下の課題と今後の展望

- 方向詞の「視点」について
⇒ 主語の交替という点と関連付け、場面ごとの「語り」の構造に着目していく
- 指示詞について
⇒ 出現状況（他の空間表現との共起、用法＜空間表現かその他か＞、人称、文のタイプなど…）を整理していく。特に後置指示詞はその性質の記述自体を見直す余地はあると考える
- 空間表現の研究が進んでいる近縁の言語、マルケサス語との対照

略号・コーパステキスト

Det 決定詞 **Poss** 所有 **Prep** 前置詞 **'Aleka** Carroll [NeSmith] 2012
Hi'iaka Ho'oulumāhiehie 2006 **Kamehameha** Williams 1996
Lili'u Lowe 1994 **SF** Elbert 1959

- Ho'oulumāhiehie. 2006. *Ka mo'olelo o Hi'iakaikapoliopole (The Epic Tale of Hi'iakaikapoliopole)*. Honolulu: Awaiaulu Press.
- Elbert, Samuel H. 1959. *Selections from Fornander's Hawaiian Antiquities and Folk-lore*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Carroll, Lewis. 2012. *Nā hana kupanaha a 'Āleka ma ka 'Āina kamaha'o (Alice's Adventures in Wonderland)* [Translated by R. Keao NeSmith]. Cathair na Mart: Evertime.
- Lowe, Ruby Hasegawa. 1994. 'O Lili'uokalani. Honolulu: Kamehameha Schools Bernice Pauahi Bishop Estate.
- Williams, Julie Stewart. 1996. *'O Kamehameha Nui*. Honolulu: Kamehameha Schools Press.

参考文献

- Blust, Robert and Stephen Trussel. 2010-(ongoing). *The Austronesian Comparative Dictionary (web edition)*. <https://www.trussel2.com/ACD/>
Accessed: 2021-01-04.
- Elbert, Samuel H. and Mary Kawena Pukui. 1979. *Hawaiian Grammar*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Greenhill, Simon J. and Ross Clark . 2011. POLLEX-Online: The Polynesian Lexicon Project Online. *Oceanic Linguistics* 50(2), 551-559.
- 岩崎加奈絵. 2018. 『句の中核部を形成するハワイ語の機能語—‘anaと方向詞を中心に—』. 東京大学大学院人文社会系研究科. 博士論文.
- Roberts, Sarah. J. 2013. “Pidgin Hawaiian”. In Susanne Maria Michaelis, Philippe Maurer, Martin Haspelmath and Magnus Huber (eds.) *The Survey of Pidgin and Creole Languages Volume III*. Oxford: Oxford University Press. pp. 119–127.
- Pukui, Mary Kawena and Samuel H. Elbert. 1986. *Hawaiian Dictionary: Hawaiian-English English-Hawaiian Revised and Enlarged Edition*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Schütz, Albert J., Gary N. Kahāho‘omalu Kanada and Kenneth William Cook. 2005. *Pocket Hawaiian grammar: A reference grammar in dictionary form*. Waipahu: Island Heritage Publishing.